

令和5年度 議会報告会・意見交換会実施報告書

総務常任委員会

令和6年1月16日
真岡市議会 委員会室

◆意見交換会

「もおか若者会議」が考える真岡市の魅力と課題

◆もおか若者会議

真岡市に住む人、働く人、大学生、市役所職員など、様々な人が集まり、真岡市の未来を語り合う団体

◆参加者

もおか若者会議の方々

総務常任委員会：

春山則子委員長、添野郁副委員長
中村和彦委員、渡邊隆委員
大瀧和弘委員、日下田喜義委員
櫛毛隆之委員



◆意見交換会の内容

Q. 参加したきっかけは？

- これまで青年会議所や二宮商工会の活動に参加し、今まで勉強してきたことを地域に還元出来ないかと思っていたところ、こういったお話をいただいた。
- 所属している青年会議所から声がかかった。若い世代の人たちに色々なものを伝えていきたい。
- 真岡市にずっと住んでいたいと思って地元の大学に進んだ。「もおか若者会議」には、大学の先生から勧められた。
- これまで「もおか若者会議」に参加していた夫から勧められた

- 大学で「真岡市のまちづくりへの若者の参加」を卒論のテーマにしている、経験として論文にいかしたいと考えた。
- 大学の先生から勧められた。同級生たちが色々な活動に参加していて、自分もやらなければと思った。
- 長野県に高校3年まで住んでいて、地元が好きだが、1度外から長野県を見たいと思い、栃木県の大学に進学した。全く知らないまちのまちづくりに関わってみたかった。



Q. 参加しての感想は？

- 長年住んできた地元でも、知らない部分が多くて面白かった。特に、県外出身の大学生との交流で、新たな発見ができた。
- 色々な世代の人たちと交流したことが、新しい発見につながった。真岡市は子育ての支援金が多いことも初めて知った。
- 木綿会館などをまわる機会がとても新鮮だった。「もおか若者会議」に参加してよかった。
- 住んでいても気付けなかった真岡市の魅力を実感する事ができた。
- 若い世代の人たちの意見がとても新鮮で、高校生が抱えている問題などを知る機会になった。
- 会議という名前から「堅苦しい場なのかも知れない」と思っていたが、とても楽しかった。
- 参加している学生の意識が高かった。真岡木綿の活用などの話で盛り上がる事ができた。

Q. 真岡市の魅力は？

- いちごや SL など観光資源が豊かだと感じる。また、子育て支援策が手厚いのも魅力だと思う。
- 商工農のバランスがいいと思う。また、まちを歩いていると、小学生たちがよくあいさつをしてくれた。人のつながりが魅力のひとつではないだろうか。



- 東京都内から真岡市に嫁いできたが、人の優しさを感じる。小学生たちがよくあいさつをしてくれると自分も感じた。

- 若者とほかの世代の垣根がないと感じる。また、Uターンに対する支援策が手厚いことを今回の活動で知った。
- まちの中を歩いていて、市民の皆さんが本当に温かく、気さくだと思った。
- 人が良くて、程よい距離感(※親切だが、適度に放っておいてくれるという意味)を保ってくれている。
- 人の温かさが魅力。ずっと真岡市に住み続けたい。



Q. 真岡市に足りないものは？

- 高齢者や子どもたちのために交通手段をもっと良くしてほしい。また、若者が遊ぶ場所がほしい。
- 子どもたちが「いいまちだ」と感じるには遊ぶ場、思い出をつくれる場がほしい。
- バーベキューができる場所やグランピングなど、ほかにはない魅力的な場所は多いのに情報発信が乏しい。SNS などをもっと活用すべきではないか。
- 大学進学を機に、真岡市を出ていく若者は多い。その分、交流人口を増やす取組が必要。外部からでも真岡市の人と関わり合える手段を増やしていけばいいと思う。



- 魅力はたくさんあるのに、情報発信が少ない。もったいないと思う。
- 交通手段のアクセスがもっと良くなれば、外に出ていっても帰ってきやすい環境になると思う。
- 中学受験で市外へ出ていってしまうケースが増えている。地元にもっと特色のある学高校があればいいのと思う。
- ホームページが分かりにくく、せっかくいい助成制度があっても伝わっていない。「真岡 子育て支援」をクリックすると助成の一覧表が出てくるような分かりやすい見せ方してほしい。

◆所見

現在の「もおか若者会議」は、メンバー構成が20～40代と比較的幅広い。

今回の参加者に話を聞いてみると、むしろそのことにより、世代間交流が進んできたと感じているようである。20代の学生は、これまで知らなかった真岡市の魅力を知る機会につながり、40代の社会人は、最近の学生の意識の高さ、抱えている悩みなどを知る機会になったと口々に語っていた。

メンバーが挙げた「真岡市の魅力」として特徴的だったのは、いちごや SL、木綿などの「モノ」よりも、活動の中で出会った市民の優しさ、温かさ、あいさつができる小学生という「ヒト」の部分に好印象を抱いたメンバーが多い点ではないだろうか。

今後、観光振興や交流人口の増大というものを考えた時、市民の人柄を前面に押し出

した「顔が見えるおもてなし」というものを、これまで以上に考えていくべきかも知れない。

一方「真岡市に足りないもの」としては、まず「公共交通」そして「情報発信」の乏しさが挙げられた。この点は、昨年度に意見交換を行った「まちづくりプロジェクト」のメンバーからも同様の指摘を受けたところである。今回の意見交換で特徴的だったのは、子どもや若者が「遊ぶ場」「思い出をつくる場」が少ないという意見が、複数の参加者から寄せられた。

現在、複合交流拠点施設が整備中であり、今後はこの施設を起爆剤として中心市街地の活性化が進められていくことになるが、若者の居場所「サードプレイス」として、どのようなものを、どのようにして設えていくかは重要な課題であると思われた。

令和5年度 議会報告会・意見交換会
民生文教常任委員会

日時：令和6年2月2日（金）

午後6時30分～

場所：401・402会議室

1. 参加者

・市内中学校 PTA 役員の方々

・民生文教常任委員会：麦倉竹明委員長 渡邊明副委員長 久保田武委員
佐々木重信委員 七海朱美委員 星野守委員 荒川洋子委員

2. 議会報告会

「民生文教常任委員会の活動報告」

- ・真岡市議会の委員会について
- ・令和5年定例会（6月・9月・12月）の審査内容について
- ・行政視察について

3. 意見交換会

テーマ「学校の環境整備について」

「部活動の地域移行について」

意見交換会の内容（一部掲載）

「学校の環境整備について」

- ・学校の草刈りをした処分を、穴を掘って埋めているが持って行っていただけないか。
- ・掃除する中で、足りない用具を補充してはどうか。
- ・保護者が家庭科などの授業を手伝うが、マシンが耐用年数を過ぎ、機械の調整に時間がかかった。
- ・学校敷地に不審者が入らないように門扉の整備を。
- ・学校給食はオーガニックが望ましいので、自治体主体で進めていただきたい。
- ・生の音楽に触れられるような機会としての支援事業を進めていただきたい。
- ・学校というものを、保護者、先生の役割、地域の役割、家庭の役割をどのように運営していったら良いか、全体で考える節目に来ている。方針や統一が出来ることなどを取りまとめていただきたい。
- ・通学路が結構田んぼの中にあるが、U字溝の設置と防犯灯の整備

「部活動の地域移行について」

- ・地域の方の指導によって動いている。
- ・実際のところ…現状把握が出来ていない。
- ・部活動顧問・活動指導部員・外部指導員の役割などがよくわかっていない。
- ・小学校では、クラブチーム化している。（保護者が監督・コーチ）
- ・各学校で団体競技がチームとして成立しなくなっている。
- ・学校とは別に、クラブチームのような子どもが自由に参加出来る居場所があったら良いと思う。
- ・いろんなスポーツを体験できる益子町のチャレンジクラブの様なものがあればいいと思う。
- ・先生の働き方改革だけではなく、子ども目線で子供にメリットがあるような地域移行を考えてほしい。
- ・部活動に入らなければいけないというルールを見直すべき。

「その他」

- ・お弁当の日を何とかしてもらいたい。
- ・学校給食の改善を願いたい。

4. 要望

- ・ 学校運営に係る保護者、先生、地域、家庭の役割の方針等の統一
- ・ 校内の植栽等の管理や授業に係る備品等の整備
- ・ 安全安心な通学路の確保
- ・ 学校給食の改善
- ・ 市主催音楽事業への学校単位での参加
- ・ 子どもの目線に立った部活動の地域移行

令和5年度 議会報告会・意見交換会実施報告書
産業建設常任委員会

令和6年2月5日
真岡市議会 委員会室

◆参加者

栃木県立真岡北陵高等学校生徒の方々

産業建設常任委員会：

服部正一郎委員長、上原チヨ一副委員長
飯塚正委員、柳田尚宏委員
鶴見和弘委員、市井元委員
大隈広郷委員



◆議会報告会

「産業建設常任委員会の活動報告」

- ・真岡市議会の委員会について
- ・令和5年定例会(6月・9月・12月)の審査内容について
- ・行政視察について

◆意見交換会

真岡市の産業について

◆意見交換会の内容

Q. 入学したきっかけは？

- 自分の家がいちご農家を営んでいるから。
- 幅広い作物を知り、資格を取得したいと思った。
- 専門的な知識を身に付けたかった。
- 農業を詳しく知りたかった。
- 姉が楽しそうだと思って進学を決めた。
- 農業関係の仕事をやりたかった。
- 将来パティシエになりたいので、食品科学科のある北稜高校を選んだ。また、職について、詳しく学びたいと思った。
- 食品を作ることできるので面白そうと思った。また、実際に作ったものを販売する経験ができて楽しそうと思った。
- 将来パン屋になりたいと考えており、食品科学科ではパンを作ることが多いと聞いたため。



Q. 高校生活で何を学び、どう活かすか？

- 学校で花の知識を学び、将来、地域の皆さんに花を販売したい。
- 農業機械の動かし方を覚え、自分が教えられるようになりたい。
- 機械整備をしたい。
- 地球温暖化による農業のあり方について、学びたい。
- 食の安全・安心について考え、将来に活かしたい。
- クラスの仲間との将来のカフェづくりに活かしたい。
- 農業の現場に活かしていきたい。
- 農業について、専門的な知識を将来に活かしていきたい。
- 食品の製造過程を総合的に学んで、食品を製造する上での衛生面や環境面に気を配って、誰でも安心したものを作れるようになりたい。
- ジャムや味噌の製造過程を学んで、食品関係の資格を取って将来できるような人になりたい。
- パンやジャムの食品開発に活かしていきたい。
- 叔父と叔母が小さい畑をやっているので、農業を学んで少しでも楽にさせたいと思っている。
- 高校や医学、地域の農業に貢献したい。
- 地域で地産地消のカフェをやりたい。
- 食料問題を解決できるような職業。
- 梨農家になりたい。
- 農業大学に行き、いちご農家を継ぎたい。
- エンジン、車の修理がしたい。
- 花に関わる仕事。

Q. 真岡市にどんなまちになってほしいか？

- 交通事故の少ないまち。
- 横断歩道を渡るとき、停止してくれる車が少ないので、解消してほしい。
- 横断歩道が少ないので、増やしてほしい。
- 若い人が楽しめる施設がほしい。
- 市街地から離れている場所に歩道が少ないので、解消してほしい。
- 若い人に農業の魅力を知ってもらいたい。
- 真岡鐵道の割引を広げる。
- 農家の後継者の推進。
- 通学路の該当を増やしてほしい。
- 交通手段を整える。
- LRT を通してほしい。
- 高校生が集まれるショッピングモールを作してほしい。
- 荒れた農地をよく見かけるので、誰でも農業がしやすいまちになってほしい。
- 看板とかを英語表記にするなどして、外国人移住者が住みやすいまちにしてほしい。
- ゴミが少ないまちになってほしい。

Q. 真岡市議会に期待していることは？

- 議会の仕組みを広めてもらいたい。
- 今回のような市民が意見を述べる機会を設けてほしい。
- 農業に関して、小中学生に関心を持ってもらうような授業をするように要望してほしい。
- 真岡市議会が何をしているのかを周知してほしい。

